

失敗してもいい。怒られてもいい。
恥ずかしいことを、大きな声で言おう。

よみうりテレビ西田二郎さんを皮切りに、今のテレビ番組制作を支えていたる各局の方たちにリレー式でインタビューしていく、Gプレス2012サマーセッション。第4回目は、『モヤモヤさまぁ~ず2』『そうだ旅（どっか）に行こう』『イーフツとくる韓国語講座』等、伊藤ワールドともいうべき独特のエッジがきいた番組を次々と生み出しつづけている、テレビ東京プロデューサー伊藤隆行さん。「テレ東らしさ」にこだわる彼に、番組制作の極意についてきいてみました。

「その『らしさ』を守って、いくために伊藤さんが心がけていることは何ですか？」

球勝負でいける大手キー局には
産みの苦しみはあると思います。

「まわに、先ほどおっしゃつていた
「番組づくりは、恥ずかしいことを大

今月の  な人

テレビ東京
制作局プロデューサー

伊藤 隆行さん

いとう・たかゆき／1972年10月24日生まれ。早稲田大学政治経済学部をギリギリで卒業後、報道志望でテレビ東京に入社。その後、1秒も報道に携わることなくバラエティ制作の世界へ。「やりすぎコーナー」「モヤモヤさまあ～ず2」「怒りオヤジ3」「そうだ旅(どっか)に行こう」等を立ち上げる。

あえて後輩の前で、失敗したり、怒られたりする姿を見せるというのもありますね。絶対通りそうもない無茶な企画をあえて提出しようと、今から僕が爆死するから、そのときフォローハーツもしくは「頼んだりします(笑)」。ま、こういう先輩もいてもいいかなというのと、今の若い世代は、生敗したり怒られたりすることにためらう傾向があるので、それを拭つてあげるのも先輩の役目かな」と。せっかく「何やったっていい」局に入社一

「若い人たちに対して、伊藤さんが意識的に何かされていることはありますか。」

世の中には、前に企画を通すために、まずは社内で大声出して言わなければなりません。自分はそれをためらいなくやってきましたが、今の若い世代を見ていると、恥ずかしいことを大声で言わなくなつたなあとは思いますね。

私的な話で恐縮ですが、僕は高校時代
学とずっと野球をやっていたんですね
が、バントばかりやらされていたり
ですよ。バッティング練習はずっと
バント。マシンに向かって「チーン」「チーン」と千球ぐらいね。あれはもう、非
しみの極みです(笑)。コーチから
「バットの芯を持って」って言われるし
です。芯は、本来「球を当てる」所で
あって、「持つ」所ではないですよね
しかも、「弱い打球を打て」と。普通は

それは、僕自身が「テレ東」的な人間だからかもしれません(笑)。

「しかし、伊藤さんの番組を見ていて、どうも、そんな苦しみをみじんも感じさせない、のびのびと楽しく作っている感じが出ていますよね。」

モヤモヤさまぁ~ず

※Gバレス 2012 Summer Session つづく